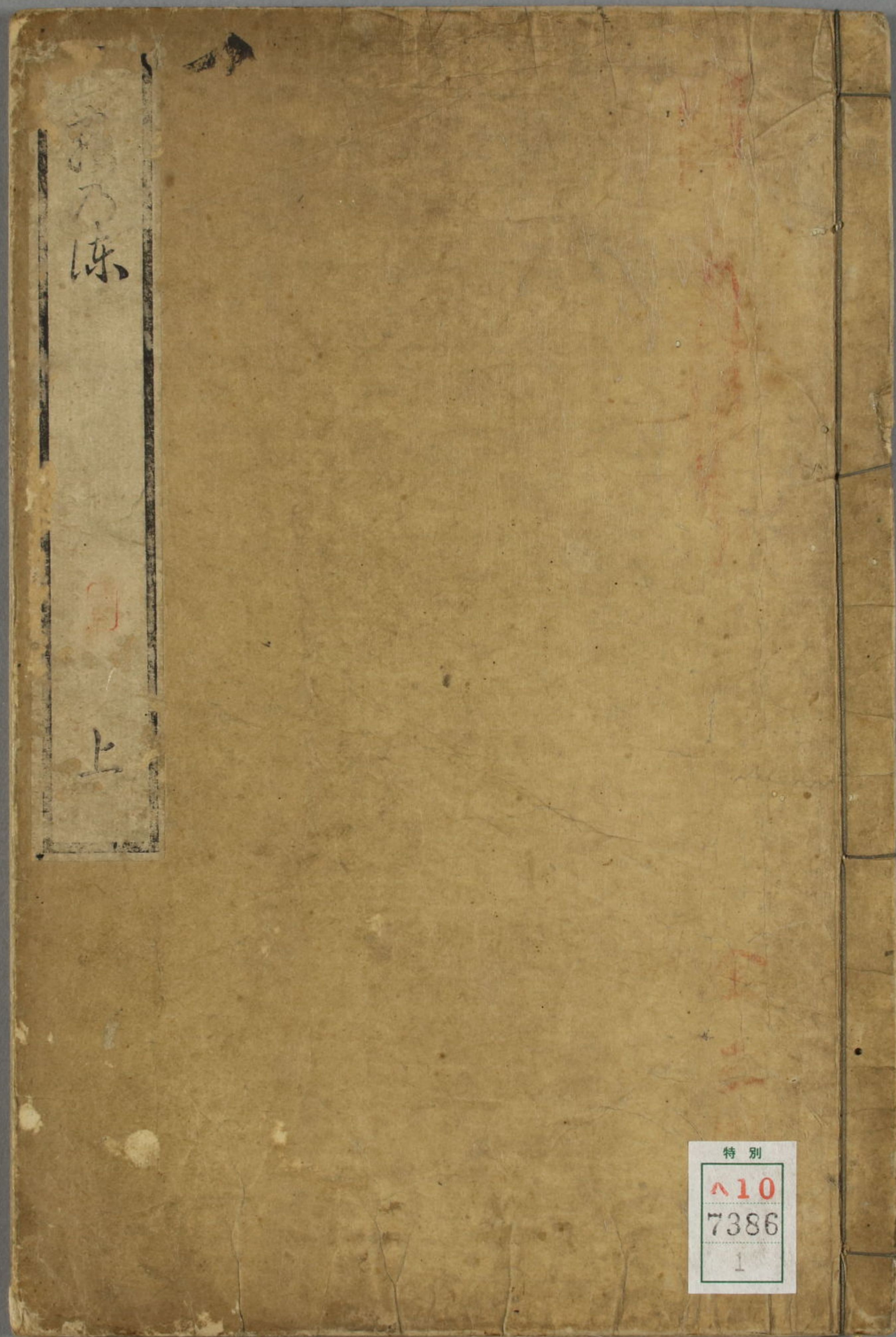




特別
A10
7386
1



北海先生著

龜 凍

平安

玉樹堂發行

龜凍序

以人凍龜乎。以龜凍人也。

龜之為物。秋至必吟。其機

之所。不能不以也。嗟乎。高



山流水人琴俱亡。從者者之能
歎。是亦陳所以由興矣。

寶曆三年三月朔日

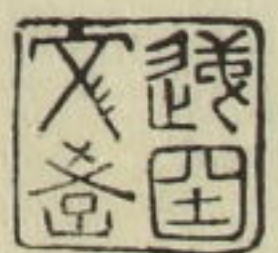
書衆諫後

斯書也。蓋出仲兄江君錫先
生一時戲筆。而有至理存焉。
人或謂仲兄在東都之日。有所
激發而作。然邪。吾知人有所
激。其言必虛。臨仲尼之聖。亦

甫扣顧其人却深如河所信
之六義比屋其一其辭用之
人哀其忠香譜用之入哂其
鄙苟其不躁即應矣姊仲兄
寸以雙務而能用其量矣
而能用比之義乎古人有云曰

言發於心而衡於口此之逆人
茹之逆心余以謂寧逆人乎故
卒吐之嗚呼與其逆人矣孰若
逆強乎此者無咎而既者有
資強強於死強之謂矣
寶曆壬午之春

弟清綯拜撰



新乃諫序

元文緒頃。以神故。以て。ニ。此。勢。の。ま。り。
東都。不。住。侍。り。志。と。あり。一。ふ。其。や。と。り
林。園。寛。散。ふ。一。と。あ。る。も。郊。外。の
ゆ。ら。か。と。し。秋。も。那。り。ぬ。ま。は。草。葉。の
ま。ど。く。虫。の。聲。く。於。悉。く。を。い。れ。り。て
乃。中。ら。ふ。き。ら。う。も。持。わ。る。い。と。ど。い。れ。る。も
数。多。ひ。は。る。り。こ。も。う。や。な。く。思。ひ。は。る。る

蟲名陳目錄

序論

蜂

右上卷

蠶

燈蛾

蠅

右中卷

胡蝶

青虫蜻
蛭附

蜘蛛

蟬

蜉蝣

蚊
附蚤蟲

蛙

金亀

蟋蟀

蛇 螢

右下卷

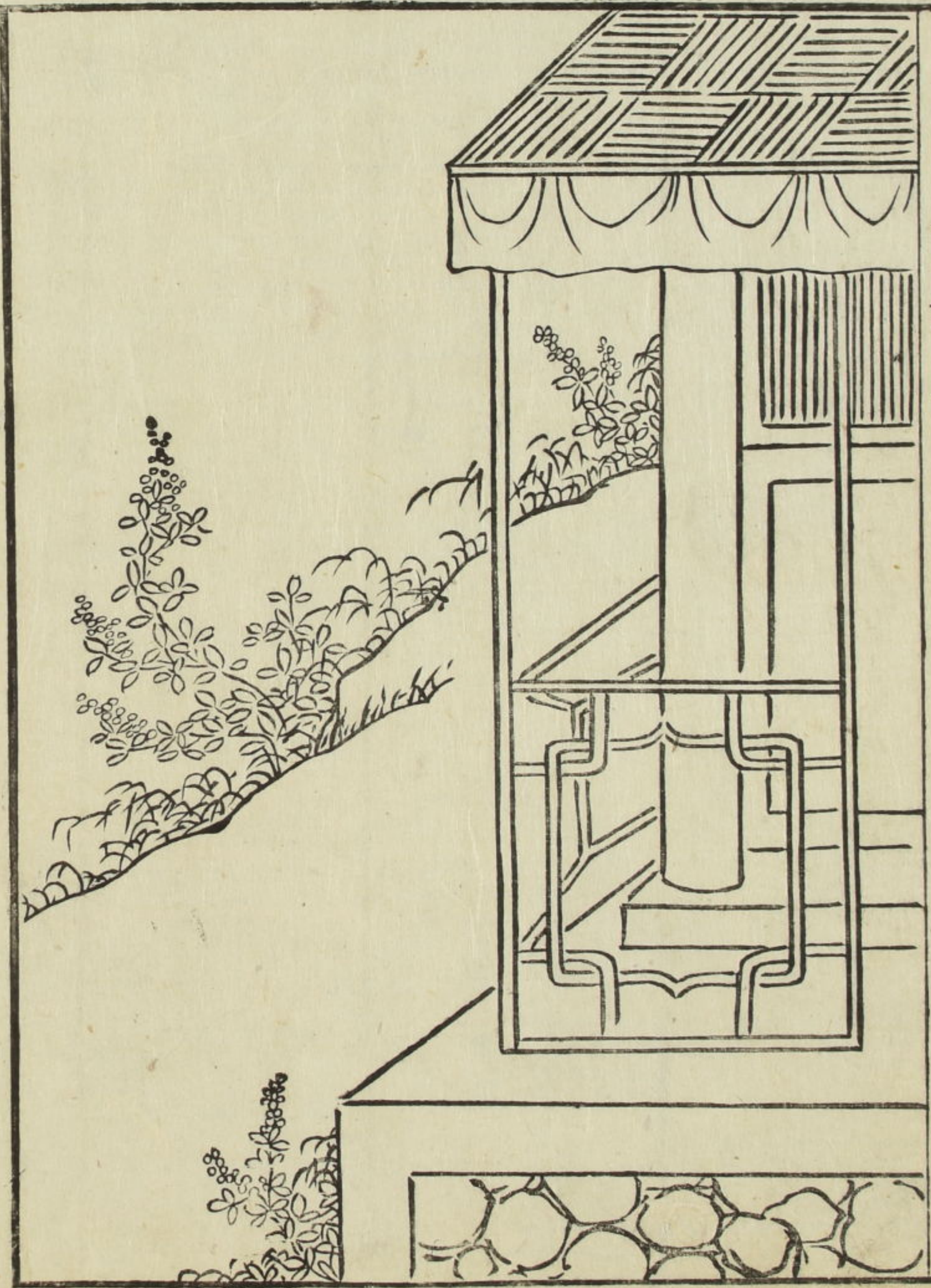


露乃凍上

七月十日阿まう。あつたれ屋ありき。
 屋にかけぬふ庭の面。一村雨うちそそぎ。
 萩。桔梗。女郎花。秋待えり花の色く。尾花。
 かりや秋ま合。雨乃余波の露乃珠。光り
 何ふふき。鄙ふあどぬる身はるる。
 ちぎる。なぐさむ心地。そよ風は端居。
 夜ぞ交ぬ。物り静まきまに。檻ちかく鳴虫の
 已が時と競ふ聲く。何よりわく屋くハあ

やじ時なり。々宵るこころの清りたすなり。や
之ども。皆世をいきどなり。時をこころ。他城持
し。已と知る。い。何さ。き。て。
敵ハ是を歎く。思ふなり。是皆敵對
能上教へ導く長あり。我輩は。より
死にむる。よき。ハ。か。あ。き
あ。い。性。なり。世中の有様ハ。只。か。る。と
の。心。別。よ。き。理。あり。と。知。ぬ。あり。あ。
能る。今宵。車。の。中。こ。あ。ま。か。こ。は。端。居。
の。





あふ何某ある人こそ。幼きより書よむを好
む。唐姓倭のあふゆもよく知るゆゑあつた
あふゆも。さきバカス斯の洗くころは后妃の物
神々々あふゆをわめ。青龍の夢くころは諺の
さうくを悪く。凡そあふゆのこそく人た。螢の
光の内より。よく見きま人をすむるをいざ
や法すよかこはむ。あふゆのすあつた。あ
ふゆ極めあつた。いづあふゆのすあつた。あ
ふゆのすく。あふゆのすく。あふゆのすく。あ

離をるる。胡蝶の戯れ樂一けありは。はまハ。
唐のやまとの。詩は化り歌は詠も。撲蝶の辞を。
樂府の選入り。胡蝶乃ち唐ハ源氏の帖みのまろ。
其金臺の何うさぬ。誰う汝も及ぶべき。さあバ汝が
彩ひの末が来まぐれ。汝うオレさう舞やと志ハ
ざらは。諸虫多く舞ま。化ゆらたまふ。いぬ彩ひのまろあふ。
人ともどもあふり。唐の莊生ハ夢中ハ汝う取
あり。家邦の佐國ハ死後り汝う姿と化す。いぬ人
のまろあふ。陳衷の舞情ありも。みよく化して

汝とる。小妻は蝶ハ化。さしバ汝が心を察す。揚ニ
とて定する。汝が形をうらふ。翩として舞
る。凡世中ふれかどよき才の上あると思へ
はさふ。さうども吾をみて汝をみれば。いぬや
一と悪む。きとれとこる免ゆ。汝がなれやう
一。はるる。生れしは幸なり。汝うなりとち
や。化しや。きまひ。毛む。そのかみ笑
かり。対ハ。重れ衣。身を霞やぐまなく。其形
れむ。けきと。世れ人。いぬ。汝もさうが

ちぐりといふや。ホ、の枯枝は、糸め。乃、此程
根を糸を仰て。ホ、陰ふく下り、かくし。其
世、これとみのひり、と云。此、時、つて
汝、罪、多し。其、糸、より、道、様、い、と、清、く
ち、庭、の、櫛、入。所、を、き、ま、す、き、集、り、去、り
其、枝、の、小、息、ま、ば、い、と、又、苦、敷、る、と、て、切、人、思
泳、め、を、持、こ、な、お、ぬ。又、く、て、憎、じ、ぎ、ハ、賤、れ、男、殊
君、女、の、世、は、何、つ、き、と、い、て、移、り、き、上、り、い、心、を
く、く、免、中、る、い、ま、る、土、大、根、を、糸、め、れ、糸、ど、よ。

汝、が、友、を、許、し、い、汝、り、なく、喰、破、る。汝、が、も、つ、る、有、り
口、腹、の、欲、を、恣、に、し、て。民、の、歎、き、を、顧、り、寸、か、の
蟲、賊、の、い、な、む、い、よ、中、に、罷、お、と、ざ、り、べ、い。さ、す、に、バ
汝、が、な、り、と、ち、の、い、や、く、悪、じ、座、き、ハ、か、お、を、し、り
持、か、い、づ、い、い、む、や、一、旦、ち、う、さ、り、福、を、得、今、の
何、う、き、ま、と、成、ぬ、ま、ば、其、も、ち、ま、り、本、の、才、を、忘、れ、む
う、お、の、が、や、ち、と、清、り、む、つ、じ、根、切、は、く、も、り、其
糸、ハ、世、又、あ、る、もの、も、思、ハ、汝、多、ま、く、往、來、の、路、は
多、て、る。あ、る、如、顔、と、と、て、あ、り。只、富、貴、の、お、り、と、

をのこし願ひぬる。かゝる程は世中の物あるは少く
 ありぬのこぞ。おちかめ。堯の聖とてす。金
 初るといふかゝるとぞのあひし。況や今の世の人ふ
 けりともや。まゝといふ人やめがねひこもありともや。
 世にの人といふ。汝の翅乃白粉。はくろいづる
 色もめで。又ハ便辟あんへきの才のあり。いふはどハやま。
 昔の何人か。いふこで。詩又仮り歌より。往昔
 むろろくうさと思ひ。宮女閨人も。かぎの
 花はめと志ふ。羅よすのの團扇あゆぎはめを。唐の

を失ひてハ眼もぬむ。なううゝめんが為さう。
あうま。玄宗のゆを以てかろる司^{つとむ}あめ終ひ
ふ。もとより輕薄^{けいさく}のゆ形^{かたち}さ。かの嬪御^{しんぎよ}の中
心^{こころ}く操^{さく}何^{なん}よりそで。只上の衣^{きぬ}義^ぎく。
室^{むろ}江^えのち^ちさ。ぬ。か^かの^の花^{はな}の色^{いろ}さ。まの^のこ
まりぬ。是よりそく^くの言^{こと}女^にの道^{みち}ハ心^{こころ}も入
連^{れん}次^じ。只よる目の^めう^うも^もか^か人^{ひと}を^をの^のお^おめ^めひ^ひなる
み^み我^{われ}。園^{えん}門^{もん}乃^の改^か日^{にち}く^くみ^み乱^{らん}ま。遂^{すなは}は馬^ば嵬^{がい}の災^{わざ}哉^や
釐^ら一^{いつ}有^あぬ。さ^さ身^みバ^バ汝^にハ^ハ玉^{たま}りて輕薄^{けいさく}なる。

園の本^{もと}ま^まれ中^{ちゆう}あり。松^{しょう}栢^{はく}の^のさ^さを^を何^{なん}りて。ん^んか^かき
さ。あ^あん^んふ^ふもの^{もの}さ^さき^きひ。か^かり^りめ^めも^もま^まま
る^る。只^{ただ}楓^{ふう}海棠^{たいかう}牡丹^{ぼたん}山^{さん}吹^ふの^のさ^さき。花^{はな}の富^ふ貴^きなる
許^{もと}、あ^あく^くも^もあ^あら^らふ。か^かの^の楓^{ふう}山^{さん}吹^ふの^のさ^さき。花^{はな}を
け^けふ^ふる^るり^り々^々々^々。人^{ひと}の饑^うを^を助^{たす}る^る実^みの^のひ^ひと^と
を^をさ^さふ^ふ結^{むす}ば^ばず^ず。只^{ただ}そ^そ奢^{おご}り^りあ^あび^びる^る。又^{また}汝^に
を^をさ^さふ^ふ。め^めく^く輕薄^{けいさく}の^のさ^さき^きを^を悦^{よろこ}び^び。つ^つと^と終^はる^る
を^をて^ても^もや^やぬ。除^す生^{せい}の^のさ^さき^きを^をあ^あら^らる^る。珠^{たま}の^のさ^さき^き
風^{ふう}を^を挽^ひく^くの^の帟^{えい}日^{にち}は^はか^かる^る。あ^あも^もや^やさ^さき^きなる。

形ひいふをいへ。韓儀は君臣の禮有り也。
古人もかめをいへ。又勤番乃時刻をあら
ぬを。韓衙といふは侍の役なり。是れ生を
いふ。まの長をあらわす。志の形。唐
姓をあらわす。そのかゝるを窺ひ。請ひり
詠。いとやまきおもはま。只その形。
あ。先達の教はほふなり。白くこなり
一。融を化りもめて。韓腰の融といへ。誰と
たふすともあり。長く詩の病ふなり。

又ハ芳野。妹留の川。流しを。世に韓媒
けす。は。理り人。か。み。代。こ
集。あ。考。す。其。智。な。と。り。ま
あ。大。一。凡。世。人。い。も。才。と。い。の
う。金。く。た。る。は。す。れ。り。才。り。り
徳。を。と。小。人。い。ひ。又。才。ハ。用。る。ま。り。など。
儒。生。れ。学。読。る。れ。ど。る。て。ま。い。も。才。う。は
り。人。世。中。い。く。人。才。う。く。又。才。を
る。ま。い。才。こ。る。は。う。た。事。た。き。時。は。何。も。

居くもなきやもこそけし。ろ二つのまけをも。
其程ふさぐひてはひる。其利益もけし。
其よくすをばふ。其こそけし。其れどーも
なうんふ。かのまけりてはなき。るやの災も
すくみか。ず。條のときも才けりて徳なき
けし。とや。い。はふ。あふき。蜜けりて。腹ふ
あふ。どき。奴。を。から。す。こ。ろ。こ。ろ。そ。き。し。き。れ。バ
唐の李林甫。う。ち。え。ふ。は。中。保。て。よく人を
ま。こ。ち。け。こ。ろ。ふ。を。以。て。條。ふ。こ。ろ。こ。ろ。も。実。さ。る。と

けし。何まの術。字よりけし。條のよ。く。もの。と
あ。こ。ろ。き。い。く。ま。む。と。金。の。け。ふ。ふ。く。と。思
し。秋。津。洲。乃。ち。又。説。ま。し。く。て。何。ま。の。條。を
目。捕。へ。ま。き。こ。態。形。の。捕。は。條。も。あ。る。ふ。と。けし。
けし。後。外。み。ハ。か。わ。や。け。の。け。き。を。お。さ。す。
内。み。た。の。う。け。と。悔。し。けし。伊。ろ。ふ。て。も。何。ま。
其。や。は。利。益。あ。る。と。有。て。是。ま。の。の。花。を
け。く。の。え。ん。と。思。ふ。出。来。て。ま。の。新。を。山。く
里。く。を。お。め。ぐ。り。と。ろ。く。け。む。の。お。務。を。翫。ふ。と。思。ふ

と遊ぶ。時々くさくさうろくろくうろくうろく。人々も
虫どもも何事。蜜蜂ハ春の花の蜜を採る。
秋の食となる。群蜂ハ夏中又糧を貯めて。
雪裏の用又供す。又休かりなすも。又力を
蓄ふ。又貯めて。又又物のいふをうらなひ
已らるゝなり。いふ。〜。蜂のさあす。窓
蔀庭の梢とも。誰へ告ぐ。誰が許しをあるも
形。取やきまぐ。網を張。往來の虫をなやめら
しめ。おをれて。己を害ふ。牙ハ肥ふれ。己をハ





頼る風情。淫らめを惡おきん。依乃國六疊毒
と云とつりて。其人を殺せと。金蚕大神より
甚。蠶毒ハ五月廿日。百毒の毒を集む
といふ。殊れ毒を捕まうとす。おろく惡む
無きハゆらと。我邦乃人ハいづと。且れ殊れふる
おろく。優ハるさ。やあがはく。我はく
平服をふ。殊れ性ふり。陰賊なり。さしと
已。毒とほど。おとこ。世上一。か。い
それ。身と直ある。ゆき。あ。め。め。め。

諧記其備を有て。其後後世よりまじりぬ。
さり知る。乞巧の祭りは供する菓あり。ゆが
糸をまといぬれ。好ふとんのまとい。ゆが糸
にのこる。かゝる評判を世上よりある。あつたや。
是より何れも世の人の巧を求め。巧を乞ふこと
いそぐ。今の人ハ百年阿まうもさ
世のこをわつて。いそぐ巧を乞ふと笑ひどま
さる。いそぐ。さきより又百年もさる人後ハ。又
いそぐ巧を乞ふことも出来ぬ。俗吏のやむ

かゝる儒生の諷説を乞ふと考へて。いげふ梁王の迂
濶なりと乃ちひも理り。好ましく今
世ハ。かゝるを乞ふと考へて。いげふ梁王の迂
濶なりと乃ちひも理り。好ましく今
乃ち。昇平年久く。奢靡風俗をなす。
國用とも。いそぐを乞ふ。飛飲の吏。縦横を
なす。桑和羊が。造智を乞ひ。第五琦が。餘舌を
乞ふ。三朝の旨は。往來。四方の藩府は。出入
す。りとの。幾十百人あり。と考へて。是等巧なるの
甚しきものあり。さきより士窮り。民々を乞ふ

國用いづゞ空乏なれば巧なるものありともみへ
が。されば世の人の巧なりと思ふも巧なるもの
拙しと思ふも拙なるものす。ひそくする拙なれば
さも。次第は巧なるものなり。その中のすべ
なるを。めいなるれば巧なる人なれば。さや
その物を害し。倍をなかり。それとみざるの罪
又大なりや

金言の上

